

セルビアの環境保護活動について

木村 幹

資源の大量消費は地球の環境に深刻な問題を引き起こしています。それに対して社会全体が協力し、環境保護に取り組むことは、とても重要なことです。今回のワークショップでは、セルビアで行われている環境保護の取り組みについて、さまざまな施設を訪れて取材をし、撮った映像を編集してビデオを作成するなかで、エコロジーについていろいろなことを学ぶことができました。

ワークショップ初日に、参加者が3グループに分かれて、「エコロジーと環境」について意見交換をしました。各自が、個人的にあるいは家庭で実践している省エネルギーと節約の方法などを話し合いました。その後、環境改善のためのアイデアを出し合い大きな紙に書き出し、グループごとに全体発表しました。その際、私が最も関心したのがイヴァンの出したアイデアでした。それは木の枝に、葉の代わりに太陽光発電器を取り付けて発電するというものでした。それは最近よく耳にするバイオメティクスの発想で、とても興味深いと思いました。ワークショップでの話し合いはすべてドイツ語だったので、私は自分の意見を述べるのにも苦労しましたが、お互いに意見を出し合うことによって、エコロジーに対する意識を共有できました。

ビデオ撮影の練習では、今回のワークショップを指導してくれたシニーシャ・ガリッチさんからカメラの使い方、マイクアームの持ち方、インタビュアーの立ち位置などの撮影技術について学び、教わったことをその場で何度も練習しました。私は今回のワークショップではカメラ担当だったのですが、カメラを固定して撮影するのが予想外に難しく、思った以上に映像がぶれてしまい、そのことを何度もシニーシャさんに指摘されました。しかし、同じグループで、撮影が上手なボーヤンに、撮影の時は脇をしっかりと締めて、両手を使ってカメラを安定させて撮影した方がよい、というアドバイスをもらい、少しずつうまく撮影できるようになりました。

ビデオ編集では4グループに分かれて編集作業をしました。私は在セルビア日本大使館の編集を担当しました。撮影した動画のトリミング作業が特に難しかったです。動画撮影では10分近くカメラをまわしていたのですが、最終的にそれを1分の動画に短縮するのが大変でした。細かい修正や調節をなんども繰り返し、最後に字幕とBGMを編集して、ビデオを完成させました。

ワークショップ最終日に、ゲーテ・インスティトゥート・ベオグラードで、完成したビデオの発表会が行われました。この発表会には、取材先の方々や、PASCH校であるベオグラード第3ギムナジウムの生徒たちも来てくれました。

今回のワークショップでは実際に撮影・編集技術について学ぶことができました。カメラやマイクなどの操作は、実際に体験してみないとわからないことが多く、本当に貴重な体験となりました。また、訪問したさまざまな施設のエコロジーに対する努力や取り組みを知り、地球の環境を社会全体で守ることの大切さに改めて気付かされました。